

「JICA食と農の協働プラットフォーム」発足 産官学一体でSDGsゴール達成を目指す

東京で開催されたJIPFA設立記念フォーラム。



*趣旨に賛同いただける方は、どなたでも参加できます。会員登録の詳細はJICAウェブサイトまで。
<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/jipfa/>

2019年4月、JICAは農業・農村開発分野でのさまざまな取り組みをより加速するために、産官学の情報共有・協働体制を構築する「JICA食と農の協働プラットフォーム（JIPFA）」を設立した。持続可能な開発目標（SDGs）の達成には、各国政府や民間企業、NGO、学術機関などの連携が必須だ。JIPFA設立で、途上国でのフードバリューチェーンの強化や市場志向型農業の推進、稲作振興、栄養改善など従来の取り組みのさらなる拡充に期待がかかる。JIPFAでは原則年1回、農林水産の関係省庁、大学・研究機関、民間企業、NGOや市民団体などが一堂に会するフォーラムを開催する。さらに、定期的なメール配信やイベント開催で情報や経験を共有しながら、会員の間で具体的な「連携事業」や「共同活動」が生まれるように、特定の地域、分野、作物などに焦点を当てた分科会を設置。できるだけ多くの人が途上国の農業に関する最新情報や経験を共有できる場づくりを目指している。

ニュース深掘り！ 先行して取り組むミャンマー

このプロジェクトのように、各国で取り組まれている多様な事業の情報や世界中の食と農の関係者で共有し、議論を深めることができるのがJIPFAです。4月25日に開かれたJIPFA設立記念フォーラムには130近い団体と企業が集まり、関心の高さがうかがえました。各事業の効果により高まるためにも、JICAは参加しているみなさま同士が、さらに連携できる体制を構築していきます。

プロジェクトでは、ミャンマー有数の観光地であるバガンで、農家が販路を開拓するための「農産物ビジネスマッチングフォーラム」を開催し、同エリア初のフードバリューチェーンの構築に取り組みました。参加した50人あまりの農家の方々は、ホテルオーナーやレストラン経営者から注文が入ることを経験し、自分たちの野菜にニーズがあることを実感。「有機野菜の生産にも取り組みたい」と意欲も生まれました。

ミャンマーでは、農業・農村開発分野に関わる国内の産官学の関係者で情報を共有し、議論を行う取り組みがJIPFA発足以前の2017年から始まっています。私が担当していたマンダレー州やマゲウェイ地域での「中央乾燥地における節水農業技術開発プロジェクト」の活動もその場で報告しました。

農村開発部 瀬川俊治

せがわしゆんじ
大学で農業経済学を専攻。OECD貿易農業局でのインターンを経て2017年入構。農村開発部で、おもに東ティモール、ミャンマーの農業案件を担当。「Jipfaではパートナーのみなさまの知見や技術を結集して、途上国の課題解決に取り組みます!」。



JICA HEADLINE NEWS

- 6月3日 | ▶ ソロモンで再生可能エネルギーの本格導入に向けたプロジェクト始動
開発調査型技術協力「再生可能エネルギーロードマップ策定プロジェクト」がスタート。輸入ディーゼル依存からの脱却をめざし、2030年までに策定を目指す。
- 5月30日 | ▶ バングラデシュ向け円借款貸付契約の調印。基幹インフラ整備に投資
港湾や都市交通、民間投資など4事業に1,326億5,900万円を限度とする円借款貸付契約。
- 5月24日 | ▶ 秋田大学と資源分野の連携協定を締結。人材育成の能力強化
秋田大学と締結していた連携協定をさらに5年間更新。途上国の資源開発に、日本の鉱山開発の知見を生かす。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>